(注) 全国でコロナウイルス感染者が増加しております。くれぐれもご注意ください。

参考「本田宗一郎かるた」発行に寄せて

郷土の偉人本田宗一郎氏は、明治・大正・昭和・平成時代を（一九〇六～一九九一）駆けぬけ、常に夢を持ち続け、失敗を恐れず挑戦・実現してきました。幼少時代、修業時代を経てホンダを創業し、世界に通用する会社にまで成長させました。その偉業を後世に語り伝えていこうと、平成二十五年にポンポンCLUB挑戦有志で、「本田宗一郎かるたづくり実行委員会」を立ち上げました。発ずは読み札の募集を全国に呼びかけたところ、多数の応募がありました。これをもとに読み札の選考と、解説に二年以上を費やしました。絵札の制作につきましては、小学生・中学生・高校生・一般の方々に、自由に描いてもらおうとお願いし、完成までに四年程を要しました。作者それぞれの思いが込められた作品を「本田宗一郎かるた」にしました。ご家庭や学校等で楽しみながら、本田宗一郎の歩みを知ってもらい、後世に語り継がれていくことを願っております。読み札の裏側には、外国の方にも楽しんでもらおうと、絵札掲載英文を静岡県立磐田総合高等学校の生徒が担当してくれました。また、視覚特別支援学校の生徒たちにも、本田宗一郎氏のことを知っていただこうと、地元の点訳者に「本田宗一郎点字かるた」をお願いし制作しました。平成二十八年に全国の視覚特別支援学校（六十七校）に寄贈させていただきました。

毎日新聞　2020年(令和2年)5月9日(土)

本田宗一郎の歩みかるたに

浜松のホンダOB 7年かけ製作

浜松市天竜区(旧静岡県引佐町)の出身で、本田技研工業（ホンダ）の創業者、本田宗一郎氏（1906～91年）の生き方を多くの人に知ってもらおうと地元の有志がつくり始めた「本田宗一郎かるた」が構想から7年をかけて完成した。作製をリードした実行委員会の宮地武夫ポンポンCLUB挑戦代表(71)＝天竜区二俣町二俣＝はホンダのOB。「かるたで本田の歩みを知り、後世に語り継いでほしい」と期待する。【福沢光二】

宮地武夫さん

宮地さんは地元の高校を卒業後、1964年春にホンダに入社。2003年春に役職で定年退職するまで主に工場で車の組み立てや品質管理に打ち込んだ。当時は、ホンダが二輪車やF1の世界大会に果敢に挑戦を続け、優勝も決して珍しくない時代だった。工場に掲げられた「終わった仕事は常に改善せよ」などの企業理念を胸に、日々、現れて宮地さんが目にする機会も多かったという本田氏。「常に夢を持ち続け、失敗を恐れずに挑む姿」にひかれ、定年退職後の13年ごろに、かるたづくりを思いついたという。

できあがった50首のかるたは読み札、絵札が44枚ずつ。読み札の内容は、バイク雑誌などで公募した。「山深い 集落した場所 光明村」のように基本的な情報のほか、「父の 鉄打つ火花を 見て育つ」のように最優しい笑顔は 世界治療人だった父親に関するエピソードを紹介。「メキシコの F1レースで 初優勝」など「夢を持ち 恐れず挑戦 実現する」など本田宗一郎の生き様や「本田さん 優しい笑顔は 世界一」という人間性を表すものもある。

読み札の背景を伝える「解説書」もたわりを持って作った。古い集のホンダに連絡をし

生き様や人間性 札で紹介

浜松市天竜区二俣町二俣の旧家で、宮地武夫さんの自宅で

て、アドバイスも受けながら細かく書き込んだため、2年半以上を要することになる。絵札は、知人などを介して地元の子どもたちにも依頼。すべての絵札を製作するまで、さらに4年がかかった。また、外国人に楽しんでもらうために、県立磐田総合高校（静岡市駿河区）の生徒に協力を求め、絵札を説明する英文を読み札の裏面に記した。

宮地さんは「地元の私でさえ、入社前は本田のことをよく知らなかった。作製の過程で何度も挫折しそうになったが、本田のことを一つでも伝えたい一心で完成させた」と振り返る。1000セットをつくっており、地元の学校などに贈ることを考えている。一般販売はしないが、1セットあたり2000円（送料別）で購入は可能だという。問い合わせは宮地さん（0880・85940・4336）。